

映画で考える 多様性と共生 / 第6回

『グリーンブック』授業ガイド

差別と旅、友情——「『知る』ことで、偏見は変わる。」

教員用・指導資料（対象：中学生以上）

📖 本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	差別と旅、友情（差別を支えた「しくみ」と、偏見が変わる過程、作品への批判）
教材映画	『グリーンブック』（原題 Green Book／2018年・アメリカ／監督・脚本：ピーター・ファレリー）
対象	中学生以上。映倫G。人種差別的な言葉や、警察に不当に扱われる場面、暴力をふるわれる場面がある
時間	標準100分（50分×2）。上映130分。厳選クリップ・あらすじ紹介を組み合わせる
中心概念	人種隔離（ジム・クロウ法）／礼儀正しい顔をした差別／偏見が変わる過程／「だれの視点の物語か」
ねらい	差別が法律や習慣に支えられていたことを理解し、偏見が変わる条件と、実話映画を多面的に見る姿勢を身につける
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／アメリカ南部の地図／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠️ 差別的な言葉・作品への批判の扱い

日本の映倫はGですが、**人種差別的な言葉**や、警察に不当に扱われる場面、暴力をふるわれる場面があります。

- 差別的な言葉を**板書・音読しない**。
- アメリカの人種隔離の歴史を**補い**、特定の人種や国への偏見につながらないように配慮する。
- 作品への批判（**遺族の抗議**、「**白人の救世主**」という**指摘**）もあわせて紹介する。
- 外国にルーツのある生徒がいる場合、特定の生徒に注目が集まらないようにする。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 「グリーンブック」と差別のしくみ（予備知識）

題名の意味

「グリーンブック」とは、ヴィクター・H・グリーンがつくった、黒人の旅行者が**安全に泊まれる宿や食事のできる店**をまとめたガイドブックです。1930年代から1960年代まで発行され、1964年の公民権法で人種による差別が法律で禁じられると、その役目を終えていきました。

礼儀正しい顔をした差別

南部の多くの州では、法律で黒人と白人の学校・トイレ・食堂などが分けられていました（ジム・クロウ法）。映画では、シャーリーの演奏は白人の観客に称賛されるのに、同じ建物のレストランでは食事を断られます。差別は、ときに**礼儀正しい顔**をしていました。

💡 この映画への批判

アカデミー賞作品賞を受賞した一方で、シャーリーの遺族は、シャーリーと家族の関係などの描き方が事実とちがうと抗議しました。また、黒人の問題を白人が助ける物語として描いている（「**白人の救世主**」）という指摘もありました。脚本にはトニーの息子が加わっています。**だれの視点で語られた物語か**を考える材料になります。

偏見が変わる4つのステップ（板書用）（板書用）

① 偏見を持っていた

トニーは、黒人の作業員が使ったコップを捨てる人だった。

② いっしょに過ごす

旅の中で、シャーリーの才能や孤独を知っていく。

③ 相手の立場に立つ

シャーリーが受ける差別に、トニー自身が怒るようになる。

④ おたがいに学ぶ

シャーリーも、気持ちを表すことを学んでいく。

🎯 この授業の到達目標

差別を支えた制度や習慣を説明でき、偏見が変わる条件と、実話映画を多面的に見る視点を自分の言葉で述べられる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「安全に泊まれる宿のガイドブック」が必要だった社会とは？と問いかける。
10-20分	背景	ジム・クロウ法と1964年の公民権法を年表で確認。
20-48分	映画を観る①	旅の始まり、演奏会場で食事を断られる場面（クリップ）。
50-70分	映画を観る②	トニーの態度が変わっていく場面（クリップ）。
70-80分	批判を知る	遺族の抗議と「白人の救世主」という指摘を紹介し、視点について話し合う。
80-100分	ワーク・まとめ	ワーク記入と共有。板書『「知る」ことで、偏見は変わる。』で締める。

🌱 まとめ

差別は、法律やルール、「昔からそうだから」という習慣によっても支えられていました。トニーの偏見は、相手を知ることによって少しずつ変わっていきました。同時に、この映画がだれの視点で語られているのかを考えることも、差別や歴史を学ぶうえで欠かせない視点です。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Green Book / グリーンブック
製作年・国	2018年・アメリカ。上映130分。日本公開：2019年3月。映倫：G
監督・脚本	ピーター・ファレリー（脚本にはトニーの息子も参加）
受賞	第91回アカデミー賞 作品賞・助演男優賞（マハーシャラ・アリ）・脚本賞
実話	1962年に行われた8週間の南部コンサートツアーがもと

主なキャストと役柄

- **ヴィゴ・モーテンセン**（トニー・“リップ”・バレロンガ役）：口は悪いが家族思いの運転手。
- **マハーシャラ・アリ**（ドクター・ドナルド・シャーリー役）：気品と孤独をかかえた天才ピアニスト。アカデミー助演男優賞。

■ ガイドブックの役目

「グリーンブック」は、黒人の旅行者が危険を避けるための生活の知恵でした。1964年の公民権法で人種による差別が法律で禁じられると、その役目を終えていきました。法律が変わることの意味を考える材料になります。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia、Forbes JAPAN等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. なぜ「グリーンブック」のようなガイドブックが必要だったのだろう？

→ 法律や習慣として差別が存在していたことに気づかせる。

Q. 演奏は称賛されるのに、食事は断られる。この矛盾をどう考える？

→ 「礼儀正しい顔をした差別」について話し合う。

Q. この映画への批判を知ったうえで、どのように作品を受け取ればよい？

→ 作品の価値と限界の両方を認め、複数の視点で見る姿勢へ導く。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 差別を支えた制度や習慣を、具体的に説明できているか。
- 偏見が変わる条件を、映画の場面を根拠に挙げられているか。
- 作品への批判をふまえ、だれの視点の物語かを考えられているか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。特定の子どもの注目が集まらないよう配慮する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	ワンダー 君は太陽	見た目のちがいと友だち	小学校高学年～
2	映画 聲の形	いじめと、向き合うこと	中学生～
3	ズートピア	偏見とステレオタイプ	小学生～
4	ドリーム	人種と性別の壁を越える	小学校高学年～
5	最強のふたり	障害と介助、対等な関係	中学生～
6	グリーンブック	差別と旅、友情	中学生～
7	リトル・ダンサー	「らしさ」の思い込み	小学校高学年～
8	パディントン	よそ者を受け入れる社会	小学生～

8 参考資料（主な出典）

グリーンブック 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「グリーンブック (映画)」 [https://ja.wikipedia.org/wiki/グリーンブック_\(映画\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/グリーンブック_(映画))

Forbes JAPAN「アカデミー賞作品賞『グリーンブック』が直面した…」 <https://forbesjapan.com/articles/detail/25683>

作品：映画『グリーンブック』（2018年、監督ピーター・ファレリー）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。